

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00332

研究課題名(和文) 西鶴とその周辺の文芸の総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of the Literature of Saikaku and Other Authors

研究代表者

水谷 隆之 (Mizutani, Takayuki)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：60454500

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：従来作者未詳とされてきた浮世草子2作(『西鶴冥途物語』1697年刊、『寛濶平家物語』1710年刊)が西鶴第一の門人である北条団水の執筆によることをつきとめ、それぞれについての研究成果を公表した。また、近世のとくに中期までの俗文芸を例にとり、当時の日本人の海外への漂流の史実と庶民文芸とがどのような関係を持ち、あるいは持たなかったのか、またその中で日本人の異国へのイメージがどのように形成され、表現されたのかを追い、論文としてまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西鶴没後刊行された浮世草子『西鶴冥途物語』には西鶴生前の俳諧に関する記述が多々あり、同じく浮世草子の『寛濶平家物語』には西鶴の『好色一代男』の挿絵を誘う文章があるなど、いずれも従来注目されてきた作品であるが、その作者はこれまで未詳とされてきた。本研究の成果により上記2作が西鶴の門人北条団水の作であることが特定できたことは、西鶴をめぐる今後の俳諧、浮世草子研究の進展のために特に重要な成果である。その他、本研究期間の成果を用いて、近世前期の漂流記と俗文芸との関係を明らかにしたほか、『仁勢物語』『吉原徒然草』『好色一代男』の解説を新見をもって執筆するなど、近世前期文学研究の基盤を整えた。

研究成果の概要(英文)：The principal investigator discovered that the authors of two Ukiyo-zoshi works ("Saikaku Meido Monogatari" published in 1697 and "Kankatsu Heike Monogatari" published in 1710), whose authors were previously unknown, were written by Hojo Dansui, a disciple of Saikaku. Taking the popular literature of the early modern period, especially up to the middle period, as an example, the paper investigates what kind of relationship did or did not exist between the historical fact of Japanese people's drifting abroad and the popular literature of the time, and how the image of foreign countries was formed and expressed by the Japanese people.

研究分野：日本近世文学

キーワード：浮世草子 俳諧 井原西鶴 北条団水

## 1. 研究開始当初の背景

西鶴の浮世草子については従来多くの研究が積み重ねられてきているが、西鶴作品の成立の経緯やその背景など基本事項においていまだ不明な点が多いため、研究者毎に作品評価やその基準が錯綜したまま研究が進められているのが現状である。また、浮世草子の創作以後、「疎句」化の傾向が顕著に認められる西鶴晩年の俳諧についても研究が進んでいない。西鶴が晩年に俳諧活動を再開した経緯や浮世草子と俳諧の本質的關係、出版書肆や俳諧師たちとの交流関係およびそれらが相互に与えた影響関係についてなど、未解決の問題が多く、西鶴およびその周辺の文芸研究を進めるための基礎的研究が必要とされている。

その解明のために重要な鍵を握るのが、西鶴第一の門人であった北条団水についての研究である。団水は俳諧師・浮世草子作者として活躍したほか、西鶴遺稿集全での編纂に携わり、数多くの俳諧師・浮世草子作者・出版書肆等と関係し、それら複数のネットワークの中で常に中心的な立場にあったと目される、文学史上実に重要な人物である。しかしながら、既に団水作の翻刻が完備してはいるものの、新たな資料の乏しさ、調査の難しさ等の問題により、その重要性を常に指摘されながらも団水研究は進展していない。団水作か否か不明な作品の作者認定問題、団水と出版書肆あるいは西鶴との関係の実態、西鶴作品、特に西鶴遺稿集への団水の加筆・偽筆の有無など、重要な問題が未解決のまま残されている。

## 2. 研究の目的

研究代表者の研究は、浮世草子・俳諧・古典注釈書・遊女評判記・出版メディアなど、近世のみならず後代の日本文化を形成するうえでも重要な役割を担った文芸諸ジャンルの研究を行い、それらの関連を明らかにし、日本文化の特質を立体的に浮かび上がらせることを目的としている。うち、「西鶴とその周辺の文芸の総合的研究」と題した本研究においては、ながらく懸案とされてきた西鶴およびその周辺の文芸についての上述の諸問題を解明し、文学史に新たに位置づけることを目的とする。文芸諸ジャンル、すなわち浮世草子、俳諧、遊女評判記、古典注釈学等の研究を個別に掘り下げ、各研究分野に新たな成果をもたらしつつ、その成果を有機的に結んで懸案の諸問題を実証的に解決しようとするものである。

## 3. 研究の方法

本研究期間内においては主に以下の方法で研究を実施する。

(1) 従来作者未詳とされてきた浮世草子『西鶴冥途物語』(1697年刊)と『寛濶平家物語』(1710年刊)が、西鶴第一の門人であった北条団水の作であることを実証する。さらにその成果をもとに、団水と出版書肆との関係、団水と西鶴作との関係の実態を探る。

(2) 西鶴の特に元禄期の俳諧について、正確な句の解釈を行いつつ精査・分析し、俳諧史上に新たに位置づける。さらに西鶴の俳諧と浮世草子を同時に分析することで、それぞれの関係ならびに新たな読解を試みる。

(3) 西鶴およびそれ以後の浮世草子、俳諧の展開のさまを追い、文学史上に新たに位置づける。

## 4. 研究成果

(1) 従来作者未詳とされてきた『西鶴冥土物語』(1697年刊)について考証し、これが西鶴第一の門人、北条団水による執筆であったことをつきとめた。本書に同じく作者未詳とされていた『好色破邪顕正』(1687年刊)については研究代表者がすでに団水作として確定してあったが、これを軸に、両書における好色本批判の共通性を指摘したほか、『俳諧特牛』(団水著、1690年刊)等における俳論や引用書との共通性、本書の版元である長谷川伝兵衛と団水との関係を他の出版書肆の動向のなかで具体的に示すことにより、本書を団水作として認定したものである。この研究成果は論文「西鶴没後の浮世草子『西鶴冥土物語』の作者をめぐって」(『日本文学研究ジャーナル』第21号、古典ライブラリー、2022年3月)として発表した。

(2) 従来作者不明とされてきた『寛濶平家物語』(1710年、「八文字屋当左衛門」刊)について精査し、これが団水による執筆であったことを実証した。『好色破邪顕正』(1687年刊)、『諸宗

鉄槌論』(1687年刊)、『西鶴冥途物語』(1697年刊)など、研究代表者がこれまでに団水作であることを確定してきた作品をも含む団水の全作品と『寛潤平家物語』とを比較検討した結果、本書には、本文のみならずそこに用いられた典拠やその利用方法等、多方面において団水作との間に極めて高い一致度が確認され、本書が団水作として疑いえないことを明らかにしたものである。この研究成果は国際シンポジウム(浮世草子研究会主催「浮世草子に関する国際シンポジウム」2023年1月)において、『寛潤平家物語』の作者と宝永の浮世草子出版界 団水作としての可能性」と題して発表し、完全な賛同を得ている。ただし、本書の出版元であったと目される菊屋七郎兵衛がなぜ「八文字屋当左衛門」との偽名を用いて出版したのか、あるいは現在『好色一代男』の挿絵は西鶴自画とみなされているが、西鶴門人の団水がなぜこの挿絵を誇る記述を本書に残したのかなど、なお検討を要する問題が残った。そこでこの説明をも試みたうえで近く論文としても公表する予定である。

(3)近世のとくに中期までの俗文芸を例にとり、当時の日本人の海外への漂流の史実と庶民文芸とがどのような関係を持ち、あるいは持たなかったのか、またその中で日本人の異国へのイメージがどのように形成され、表現されたのかを追い、「漂流と漂着 『韃靼漂流記』を中心に」と題した論文を執筆した(『東アジア文化講座第1巻 はじめに交流ありき 東アジアの文学と異文化交流』文学通信、2021年3月)。近世の漂流記録は写本として流通したが、それは鎖国下において出版が規制されたためであり、従って文学作品における異国への漂流は、実際の漂流記録を取り入れながらも、既存の古典に置き換えたり、架空の国として設定したり、教訓を述べつつ登場人物の言動を滑稽に描くなど、近世の俗文芸が多く採った一定の「型」を借りて描かれていることを具体例をあげつつ論じたものである。さらにそうした見解のもと、『本朝二十不孝』(西鶴作、1686年刊)、『世間母親容気』(多田南嶺作、1752年刊)などの浮世草子に利用された漂流記を新たに指摘してその関係について考察し、これらが実際の漂流を教訓と笑いに昇華させた近世的な創造の典型であることを指摘し、新たな読解と作品評価を提示した。

(4)近世文学とそれ以前の古典学との関係、遊女評判記についても調査を進め、その研究成果を反映して新見を加えたうえで、『仁勢物語』(作者未詳、1644年刊)、『吉原徒然草』(来示作、1709年頃成)、『好色一代男』(西鶴作、1682年刊)の解説と作品分析を執筆した(『奇と妙の江戸文学事典』文学通信、2019年5月)。

以上のほか、『源氏物語』空蝉巻を例に、古注釈や絵巻、梗概書、近世前期の俗文芸におけるその形象のさまを追い、それぞれの特徴と成立の背景について考察した論文(論文タイトル「幻の『源氏物語絵巻』の『空蝉』 中世・近世の『源氏物語』享受とその展開」)も執筆し入稿したが、出版社の事情によりいまだ刊行されていない。

また、元禄期の西鶴ならびにその周辺の俳諧についての研究も進めたが、成果公表には至らなかった。当初予定していた国内外における資料調査が新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けて不可能となり、予定を変更し、すでに収集済みであった資料の分析を行うにとどまったためである。ただし本研究期間中に実施した俳諧研究は、上記の『西鶴冥途物語』、『寛潤平家物語』の作者認定に多く寄与している。

以上、全ての研究成果を完成、公表するには至らなかったものの、西鶴研究において従来注目されながらもながらく解明には至っていなかった浮世草子2作品の作者を新たに特定するなど、今後の西鶴研究、浮世草子研究を進めるために必要かつ重要な成果をあげることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 水谷隆之	4. 巻 21号
2. 論文標題 「西鶴没後の浮世草子 『西鶴冥土物語』の作者をめぐって」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 pp.73-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 水谷隆之
2. 発表標題 「『寛潤平家物語』の作者と宝永の浮世草子出版界 団水作としての可能性」
3. 学会等名 浮世草子研究会主催「浮世草子に関する国際シンポジウム」
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 染谷智幸編、水谷隆之（他36名）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 447
3. 書名 『東アジア文化講座第1巻 はじめに交流ありき 東アジアの文学と異文化交流』（水谷隆之「漂流と漂着 『韃靼漂流記』を中心に」）	

1. 著者名 長島弘明編、水谷隆之（他38名）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 536
3. 書名 『奇 と 妙 の江戸文学事典』（水谷隆之「古典をもじり浮世を描くー『仁勢物語』『吉原徒然草』、水谷隆之「色好み」が「好色」になったー『好色一代男』）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------